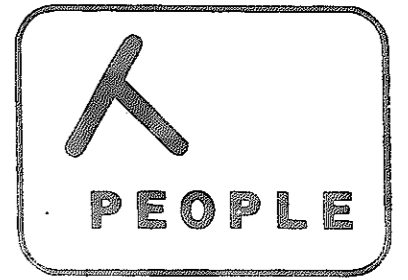


広報しろね

S·h·i·r·o·n·e

1999.5.1
No.545



白根の農産物を広めたい



▶ハウスポドウ畑で



石田 勝人さん

白根の農産物のブランド化と先進的な経営体の育成を目指そうと、平成九年に発足した「しろねブランド塾」。市や農協、農家代表者らからなる同塾の塾長を務めるのは石田勝人さん（五十四歳・庄瀬五）です。

石田さんは、「新しくできた集出荷施設を利用するなどして、全国的なレベルで白根の農産物の良さを皆さんに知ってほしい」と話します。

同塾は施設利用、生産、銘柄、交流の四つの部会を設けて活動を展開しています。これまでもアンケート調査や高速道路のインターにパンフレットを配置したPR活動、たい肥などの有機物を利用した土づくりの研究などを行っています。また、現在白根の農産物の統一マークを広く募集中。イメージアップの向上を目指しています。

「厳しい農業経営の中で、自分たちで何とかしていかなければ後継者も育たない。何かきっかけをつくることで、次の人たちの足掛かりになればと思います。今は果樹と切り花が中心ですが、あらゆる農家の人たちを取り込んで白根をアピールしていきたいですね」と話してくれました。

古木老木の伝承

～ふるさとの木々～

ケヤキ



ケヤキは、多くの家で防風・防火を目的に家の周囲に植えられました。特に、洪水の多かった白根でも、洪水対策として家が流されないように植えられていました。

ケヤキは木目が美しい良材で、寺社などの建築物、家具、造船などに多く利用されてきました。昔は家屋を建てる際には、柱などを固定する梁を止める木（せんぐきのようなもの）にも使われていました。



また、ケヤキは材質が強く、幹も真つすぐ伸びる木であることから、戦時中は、主に造船用として国に差し出す供出木とされた木です。その中でも建物や電線など周囲に危険を及ぼすものがあつて、切つて運ぶことができない場所の木が生き残り、今日に至っています。

▶数字で見る市勢 ※4月1日現在 ※()内は前月比

| | |
|------------|-----------------|
| 人口 | 40,459人(+15人) |
| 男 | 19,794人(0人) |
| 女 | 20,665人(+15人) |
| 世帯 | 10,684世帯(+16世帯) |
| 出生 | 44人 死亡 38人 |
| 3月中の 転入 | 238人 転出 222人 |

編集ルーム ◎4月より秘書広報係に配属となりました。◎インスタントカメラしか使ったことのない私。初めてのシャッター、緊張して押しました。ファインダーをのぞいているのは私ではなく広報を読む皆さんの目。◎桃の花の美しさ、取材先で聞く話、今まで知らなかった白根の姿に驚くことがたくさんあります。◎戸惑いながらも取材に駆け回ります。よろしくお願ひします。(よ)

※資源保護のため再生紙を使用しています。※紙上の記事・写真の無断転用を禁じます。

白根市HOPPE計画推進事業 川と凧と実りのまち 広い空の夢づくり



もうすぐ始まる介護保険
お知らせ
有志指導者の紹介
みんなのページ
広がれ健康家族
シリーズ・人
古木老木の伝承